

オリンピックピック三連覇

柔道 野村選手に学長表彰

奈良教育大学大学院教育学研究科保健体育専攻を修了した野村忠宏氏がアテネオリンピックでオリンピック三連覇を達成されました。この偉業を讃えるために十月一日に学長表彰が講堂で行われました。表彰に先立ち学長室を変えてあったこと、修士論文で苦しんでいる時に怪我があり、その時は本当に苦しかったが、今となっては苦しんだことがよかったと思う」と奈良教育大学大学院時代の話をされました。三連覇の影にある野村氏の苦悩や努力、そしてそれを乗り越えたところにオリンピックの三連覇があったことが出席者に伝わりました。表彰式では学長から「本学教職員や学生に多大なる感銘と希望を与えられました」という言葉を添えて賞状が、副学長、後援会から記念品が渡されました。その後、大学、同窓会、柔道部から花束が贈られました。



のためにできることを考えながら真剣に生活することが大事である。」というメッセージを送りました。

学生には、自分がやりたいことは何かを整理し、そのために何をすべきか、そして、必死で頑張らなくても、やれる努力をすれば「夢」はかなうということが伝わったと感ずることができました。

野村忠宏君 オリンピック三連覇おめでとう

保健体育講座・教授 岡澤 祥訓

野村君に出会って九年の歳月が流れました。その間、野村君はアトランタ、シドニー、アテネの三つのオリンピックで金メダルを獲得しました。日本人では、柔道では、誰も行うことができなかった偉業をなしとげました。九年間には多くの出来事がありました。三連覇にチャレンジするその場に私も一緒に、負けても勝つてもその感情を共有しようとアテネまで出かけた。三連覇を達成し金メダルを掛けてもらっていました。三連覇を見た時、多くの困難に向って努力している野村君の姿が頭の中を駆け巡りました。「よくやった」、「感激した」、いろいろな言葉で表現できるようで、できないこの感覚はいいなんだろう。自分がやったわけではないのにこの充実感はいったいなんだろう。指導者、教師が得られる満足感とは、こんな感覚なんだろう。アテネでの野村君のメンタルは私がサポートした選手の中では最高のものであったと思う。でもどうすれば、あのメンタルで闘えるのか。今の私には分からない。野村君に聞こうと思う。教え子に自分の専門の内容を教えてもらいたい。情けない話なんだろう。いやそんな教え子に出会えたことに感謝すべきなんだろう。野村君からそのことを説明してもらい、分かった時、きつと大きくなった自分がそこにいる。そんな自信が沸いてくる。

「野村君おめでとう、そして感動をありがとう」、「今の私から送る言葉は、まだ、月並みな言葉でしか表現できません。」

